

うつのみやこども賞だより

平成19年度 第9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

セン
「天才探偵sen」

大崎梢 / 作 (ポプラ社)

「無愛想なアイドル」

杉本りえ / 作 (ポプラ社)

～読んだ本の感想より～



千がどんだんなぞをときあかしていくのがおもしろかった。

千はとても頭が良いけれど、大人のきれいな女の人に弱いという設定がおもしろかった。

はんにんをつかまえる時、すごくドキドキした。少しこわいところもあったけど、スイスイ読めた。

事件をとくとあらたな事がでてくるのがおもしろかった。

おもしろくて、読み始めるととまらない本でした。

千と一緒に探偵になっている気分だった。

千が香奈と信太郎と3人でなぞをといっていく所がおもしろかったです。



私は最初この表紙を見たときは、おもしろい話かなと思って読んでいました。せつなくて感動する話でした。

話の語り手が洋介と翔子の二人の視点から見たところが、ユニークでした。

風丸のような犬をかってみたい。

風丸がかわいかったし、あらためて、友達っていいな...と思いました。

最後は感動的で、よかったです。

クールな翔子のファンになりそうです。

フトマキ(洋介)の家族はたくさんいて、一人一人おもしろいと思った。

「キャンセル未来図」

あかねるつ / 作 (岩崎書店)

「うちらはもうだれからも必要とされてないんやっ」という気持ちがとても身にしみてきた。

キャンセル3人組が旅に出たときは、どうなっちゃうんだろうと、ハラハラドキドキした。

家出を計画して、それを実行にうつしてしまう3人は、すごいと思った。

子どもだけで一度も行ったことのない場所に行くのはすごいと思った。

話に夢中になる物語でした。

「虫愛ずる姫の冒険」

芝田勝茂 / 作 (あかね書房)

姫なのに虫好きというせつていがおもしろいと思った。

おひめ様があんなにおてんばだとは思わなかった。

昔の物語でおもしろかったです。でも私は虫が苦手なので、虫めずる姫の気持ちが分かりません。

大カマキリと大グモの対決に迫力があつた。

最初の方が、意味が分からなかった。